

**注意点1**

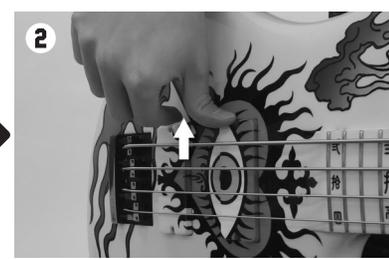
**右手**

**ピッキング後に人差指をもとの位置に素早く戻そう!**

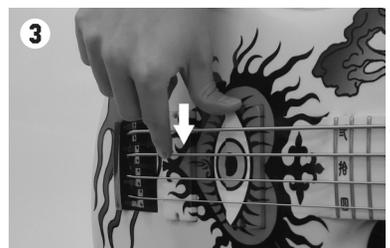
基本的にロック・ベースは、音を短く切らず、伸ばすことが多いため、ピッキングではオルタネイトではなくダウンのみで演奏することが多い。指弾きでは、1フィンガー・ピッキングを使うことで、ピッキングによるダウン弾きのようなロック的なノリを生み出せるだろう(2フィンガーでは、どうしても自然とミュートが掛かってしまうが、1本指で弾けば「ガツン、ガツン」と、テヌート【註】気味のサウンドになる)。演奏時には、弦を弾いた後に人差指をもとの位置に素早く戻して、すぐに次のピッキングに移るように心掛けてみてほしい(写真①~④)。1フィンガーは、スロー~ミディアム系のテンポに適した奏法のため、必ずマスターしよう。



① 1フィンガーの基本動作。まず人差指を弦に当てて……



② アップで、ピッキングする。



③ ピッキング後は、指を素早く降ろして……



④ 再び人差指を弦に当てよう。

**注意点2**

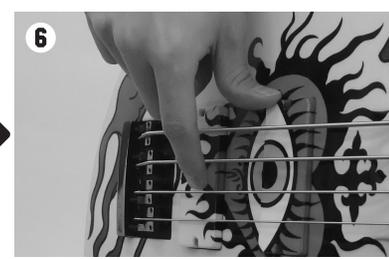
**右手**

**指を弦に触れて休符を正確に入れるべし!**

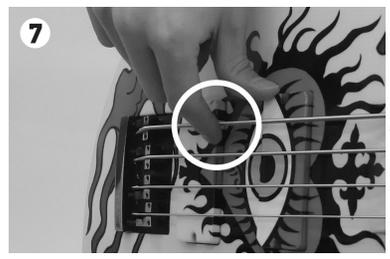
まずは、1フィンガー・ピッキングの基本的な弾き方を指にキッチリ叩き込もう。梅フレーズでは、各音をしっかり伸ばしながらピッキングするとよい。竹フレーズは梅フレーズに休符を入れたパターンだが、ピッキング後に指をすぐにもとの位置に戻して弦に触れて休符を入れよう(写真⑤~⑧)。この時、休符の“間”をきちんと取るように心掛けてみてほしい。松フレーズは、竹フレーズに経過音を入れたパターンだ。メイン・フレーズにも経過音が入るが、リズムに乗り遅れずに、1フィンガー・ピッキングをきちんと行なおう。グルーブを重視することも忘れずに演奏すべし!



⑤ 1フィンガーによるアップ・ピッキング後には……



⑥ すぐに人差指をもとの位置に戻す。



⑦ 人差指が4弦に触れて、音を止めよう。



⑧ 休符後に、再びピッキングする。

~コラム1~

**将軍の戯れ言**

“三つ子の魂百まで”ということわざがあるように、楽器の技術を磨く上で基礎は非常に大切だ。基礎がしっかりしていないために、伸び悩んでしまったり、壁にぶつかってしまうことがある。華麗なタッピングや速弾きは、スポーツの世界で例えるなら、オリンピック級のテクニクだと言えるだろう。ただ、オリンピック選手たちもまた、基礎トレーニングを積み、少しずつ自分の限界点を越えながら、常人離れていくのである。ベースを始めたばかりの者なら、まずは基礎固め。ベース経験者なら、原点回帰を図って、基礎をしっかり再確認すべし!

**超絶の道は1日にしてならず! 基礎の重要性を再確認せよ**



⑨ 基礎を怠るものに“超絶”の道は開かない。本書を活用して、基礎固めをせよ!

【テヌート】 その音の長さを十分に伸ばすこと。楽譜上で、音符の上に“—”の記号を付けて表す。ちなみに、音を短く切るとはスタッカートと言い、音符の上部に“.”を付けて示す。